

LASA第16回国際大会(短信)

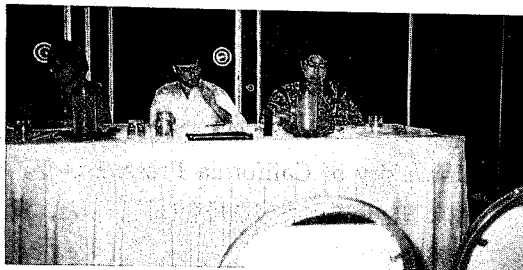
著者	石井 章
権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	ラテンアメリカレポート
巻	8
号	2
ページ	30-30
発行年	1991-06-20
出版者	アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00006523

LASA第16回国際大会

石井 章

(中南米総合研究プロジェクト・チーム)

報告する幡谷研究員(右)



LASA (Latin American Studies Association: 米
国ラテンアメリカ学会) は学際的なラテンアメリカ地
域研究の学会として世界最大規模のものである。1966
年の設立で、今年で25周年を迎える。ほぼ1年半ごと
に場所を変えて国際大会が開催される。第16回大会は
本年4月4日から6日までの3日間、桜が満開のワシ
ントンDCに隣接するヴァージニア州アーリントンのホ
テルで開催された。

毎年のことだがLASA大会はセッションの数がきわめ
て多く、午前7時から午後7時まで、1日6こまの時
間帯に複数同時進行で行なわれる。主たるセッション
は午前8時から午後4時45分の時間帯にセットされて
いたが、その他にドキュメンタリー映画の上映、書籍
の展示販売もあり、参加者は時間のやり繰りに苦労さ
せられることになる。

全部で265のセッション (パネル、ワークショップ)
の内訳をテーマ別、地域別にみると、テーマでは芸術、
文化、文学関係38、経済、開発、債務問題30、民主化、
政治過程29、女性問題26、米国—ラテンアメリカ関係
25、環境問題17といったところが多く、地域では中米
が断然多いのが目立った。中米を表看板に掲げるパネ
ルおよびワークショップは27に及ぶ。次いでメキシコ
12、カリブ8、アンデス7、ブラジル6の順となり、

南部諸国 (Southern Cone) は3にすぎない。

筆者は主として中米に関するセッション、「80年代中
米の選挙と民主化の評価および90年代の展望」、「ニカ
ラグア、エルサルバドルの民主化と反政府反乱」、「米
国の対中米政策：世論の役割」、「グアテマラ：選挙、
民主主義、軍・民関係」、「転換期のニカラグア：上か
らと下からの統合」、「革命以後：90年代の中米」他に
出席した。

もともとLASAに関係する研究者はどちらかといえば
レーガン、ブッシュ両政権の対中米政策に批判的な者
が多く、これまで中米関係のセッションはイデオロギ
ーや現実政治の絡んだ劇的な議論が聞かされることが
多かった。とくに前回の大会(1989年12月、マイアミ)
では、その前後にエルサルバドル内戦の激化、米軍の
パナマ侵攻という事態が起こり、またニカラグアの選
挙をめぐる米政府が野党UNOに公然と肩入れするとい
う事実があり、中米関係の会議は緊迫した雰囲気にな
って包まれていた。それに比べて今大会では、ニカラグ
アの政変、内戦終結を一つの転換点とし、東西冷戦の終
焉という国際情勢の変化を背景に中米地域紛争が鎮静
化へ向かう状況のもとで、中米関係のセッションもよ
り落ち着いた、本来の学会に相応しい雰囲気のなかで
行なわれたというのが筆者の印象である。

本大会では当研究所からはじめて幡谷則子研究員が
「コロンビアのコーヒー生産地域における労働力市場
の都市・農村間関係」のテーマで報告を行なった(「コ
ーヒー農業における労働力市場」のパネル)。

次回大会は1992年の秋にロサンゼルスで開催が予定
されている。